

調査報告書

- 1 とき：2013年12月19日
- 2 行先：名古屋港水族館
- 3 参加者：山口清明、政務活動補助員（浜田）
- 4 主な内容
 - ・ みなとまちづくりの指針となる築地ポートタウン計画の見直し作業が始まっている。ガーデンふ頭エリアの中心的な集客施設である名古屋港水族館の現状と課題を調査するとともに、名古屋市の観光施策やガーデンふ頭エリアの開発について水族館関係者と意見交換した。
 - ・ 水族館はシャチやバンドウイルカ、ベルーガと鯨類のベビーラッシュもあり、集客力が向上している。現在はサンゴの海の大水槽の改修工事を行っており、来年の冬には生きたサンゴの展示も予定され、新たな魅力を発信することになる。冬もペンギンのヨチヨチお散歩などのイベントも積極的に行い、集客力を維持している。
 - ・ また指定管理期間が4年から8年に伸びたことで、長期的な計画を立案しやすくなった。
 - ・ 築地ポートタウン計画のポイントの一つである、ガーデンふ頭の開発についても意見交換した。イタリア村跡地も水族と触れ合う空間にするなどの思いきった展開も必要ではないか、水族館そのものが既存施設ではお客にとってもペンギンはじめ水族にとっても手狭なものになる。
 - ・ ガーデンふ頭全体が水族館という発想が必要。また伊勢湾に生息する鯨類であるスナメリについても都会近くの海にすむ貴重な存在として光を当てたいとの意見も。
 - ・ 水族館を起点にベイエリアをどう魅力あるゾーンにするのか、さらに知恵を絞りたいたいと感じた。